

第2章

地域福祉活動の現状と課題

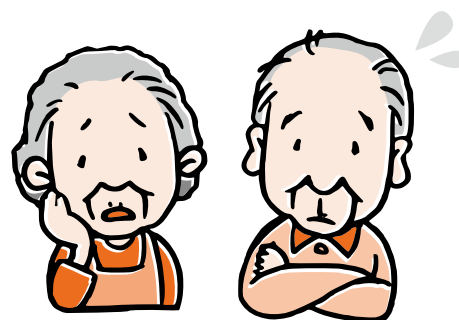
1 地域福祉活動の現状

近年、少子高齢化や核家族化、高齢者世帯の増加、価値観の多様化、生活不安の増大、犯罪や事件の深刻化などを背景に、地域社会のつながりや、地域に対する関心の希薄化が問題になっています。

また、これらに関連して、孤独死、虐待、認知症高齢者の行方不明、消費者被害、障がい者の地域移行(注記3)、見守りが必要な人の増加など、地域の福祉課題が徐々に拡大しています。

一方、住民の中には、ボランティア活動に関心を持つ人や、退職後に地域を中心とした生活を送ることを望む人が増えています。しかし、これらの人が地域福祉活動の担い手につながっているわけではなく、人材の不足が解消されているわけではありません。

これらのことから、このまま地域の福祉課題を放置しておく場合と今後、地域福祉活動を進展させた場合とでは将来のまちづくりが大きく違ってくる予想します。次ページにこの二つの場合を比較する図をまとめました。



(注記3) 地域移行

障がい者支援施設に入所または病院に入院している人が、自分らしい生活の場を求めて地域での生活に移行する際の相談や支援を行う取り組み。主な支援として、住まいの確保やひとり暮らしに必要なスキルの向上などがある。

私たちの暮らす まち は地域福祉でこ

不安や課題をそのまま放置しておけば…

地域の中での不安や課題

若い世代は、福祉課題に気がつく機会が少ないため、現状を知らせないと協力者は増えない。結局、一部の人だけが踏ん張って活動し続けることになってしまう。将来的には活動がしぼんでいく…



若い世代の力を借りたいけど、若い世代の人にそういうことをお願いしてもいいかわからない。知り合うきっかけが少ないし…

せっかく気持ちがあっても生かせるところがない。地域の中に活躍できる場がないまま日々が過ぎてしまう…



退職後は、地域と関わる生活がしたい！私にどんなことができるのだろうか…

お手伝いしたい気持ちを持つ人は増えても、手助けがほしい人には、うまく結びつかない…

特別なことはできないけれども、ちょっとしたお手伝いならできる。この気持ちを誰に伝えたらいいのかわからない…

ひとり暮らし世帯が増えていく中、近所に異変をキャッチし、防ぐ人がいなければ、ますます気がかりな高齢者が増えてしまう…



近所にひとり暮らしや高齢者だけの世帯が多くなった。孤立や消費者被害が心配…

災害時や緊急時に困っていることに気がつかない。安否確認、避難生活での助け合いが進まない…

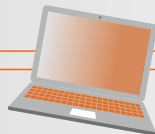
近所に目の不自由な人が暮らしているんだけど、どうやって関わったらいいんだろう…

本人に意欲や生活力があっても地域の受け皿がない。福祉施設や病院から生活の拠点を移せない…

福祉施設から出て、ひとり暮らしを始めたいけど、近所の人に迷惑をかけずに、うまくお付き合いしながら生活できるだろうか…

困りごとの相談は特別に集まらなくてもインターネット等でやり取りすれば十分という人が多数を占め、結果として孤立してしまう人が生じる。ふだんの生活ではひとりぼっちから抜け出せない…

身近な地域にいつでも気軽に集まれる場所があるといいなあ…



子育てがストレスになり、孤立していく親が増え、子どもへの虐待が増加する…

子育てはわからないことばかり。身近に相談できる人や仲間があるとありがたいのだけど…



地域福祉活動を進めていくと…



地元での福祉課題に気がつく若い世代が増え、理解者、協力者も増える。そして地域福祉活動が活発になる！



地域で活躍できるきっかけが生まれ、日頃のつながりやコミュニケーションも進む！



手助けを求める人とお手伝いしたい人をコーディネートすることができ、助け合いや支え合いが活発な地域になる！



近所の人たちによるコミュニケーションが増え、気がかりな高齢者が減る！



ふだんからの関わりを持っているので、災害時や緊急時の対応もスムーズになる！



福祉施設や病院から生活の拠点を移す環境が整い、各地区で自分らしい暮らしをする人が増える！



新しい出会い、発見、交流が進み、支え合いに発展する機会が増える！



相談やつながりの機会が増えるとともに、地域の宝として子どもを育て、見守ろうという気運が生まれる。子どもの健全な育成に関わる人が増える！



地域福祉活動として、現在、このような取り組みが進められています

- 声をかけあう「見守り活動」
- 交流を促す「自治会型デイホーム」
- 食を通じてふれあう「食事サービス」
- 見守りを強化する「支え合いマップ」
- 世代を超えたつながりを築く「世代間交流」
- 共に生きる力を育む「障がい理解のための啓発」

など



第3次地域福祉活動計画では、地域福祉活動をより強化するために、**「20の取り組み」**を進めます

くわしい内容は、この計画の16ページ以降をご覧ください

2 今回抽出した課題及びニーズ

このような中、第3次地域福祉活動計画の作成にあたって、既存の調査結果と関係機関・団体懇談会でのヒアリングで課題及びニーズを抽出しました。

また、第2次地域福祉活動計画の策定から引き続き解決の必要な課題も残されています。ここから得た課題やニーズを下記のようにまとめました。

(1) 集う場

身近な地域で外へ出るきっかけとして「場」は重要な役割を果たしています。

地域への貢献、生きがいを求める「活動の場」、安心して過ごせる「居心地の良い場」、ちょっとした困りごとや相談や多くの人と交流できる「相談、交流できる場」が求められています。

ここでいう「場」とはハード面だけでなく、人と人とのつながりや心のよりどころも含めたソフト面の意味合いも含まれています。

今回 見つけた 声

- ▼障がいの有無にかかわらず、対象の垣根のない集まる場所がない（障がい者分野）
- ▼誰もが行きやすい場所づくりが必要（高齢者分野）
- ▼地域内で相談、交流できる場づくりができていない（地域福祉分野）

第2次 活動計画からの 継続課題

- ▼アクティブシニア（元気高齢者）の活躍の場が十分ではない（高齢者分野）
- ▼児童館や公民館で相談できる場づくりが必要（子ども・子育て分野）

(2) 担い手

地域福祉活動を進めるためには、「人」の力は欠かせません。見守り活動も、福祉委員活動も、ボランティア活動も「人」で支えられています。

一方で、人材不足や新たな活動者の発掘の必要性、企業や団体との連携が求められています。そのためには地域に関心を持つ仕掛けを作ることや、人と人、人と場の確に結ぶコーディネートの手法を身に付けた役割の人の育成も求められています。

今回 見つけた 声

- ▼仕事をしている若い人が地区の活動で役割を担っていない（子ども・子育て分野）
- ▼ちょっとした手助けをしてくれる地域の人やボランティアのコーディネーターが、地区でできていない（高齢者分野）
- ▼民生委員と福祉委員が連携して十分に見守り活動を行えていない（高齢者分野）
- ▼ボランティア活動について、地域住民は興味関心があるがやりたいことがわからず、自分に適した活動の情報収集できる機会が十分ではない（地域福祉分野）
- ▼役員の高齢化が進み、個々人の負担が増している（高齢者分野）

第2次
活動計画からの
継続課題

- ▼地域福祉活動への協力者の発掘が十分ではない（地域福祉分野）
- ▼企業や法人の社会貢献の意識と地域の福祉ニーズが結びついていない（地域福祉分野）

(3) つながり

地域福祉活動は、住民同士のつながり、孤立している人への支援、組織間、関係者間の連携、障がいがある人への関わり、近隣での助け合い、子どもの成長に対する支援などの「つながりづくり」も期待されています。これらをカバーする地域福祉活動の支援体制も求められています。

今回
見つけた
声

- ▼地域で行事を企画しても、なかなか協力してもらえない。中心となる人たちだけに負担が大きくなっている（地域福祉分野）
- ▼子育てが始まる前から、若い世代が地域と関係性を結べる機会を作れる場が不十分である（子ども・子育て分野）
- ▼SOSを発信することの重要性を伝える場がない（高齢者分野）
- ▼発達や知的障害があっても、できないことばかりではない。できること、役立つこともいっぱいあるが、それを地域で発揮できない（障がい者分野）
- ▼制度に頼りがちで地域の互助を高めることが困難である（高齢者分野）
- ▼乳幼児とその保護者対象の子育て広場など集まりに参加できない保護者に対する支援が必要である（子ども・子育て分野）

第2次
活動計画からの
継続課題

- ▼若い世代が活動するフォロー体制（情報提供、橋渡し、体験の場）が十分ではない（子ども・子育て分野）



(4) 情報発信・情報共有

人と人、人と場がつながる際に不可欠なのが情報です。地域福祉活動に関する情報の共有、周知はもちろん、意識啓発、社協活動の周知が継続的に必要です。的確に伝わるための工夫も必要です。

今回
見つけた
声

- ▼避難行動要支援者名簿があっても支援できる体制があるとは思えない（障がい者分野）
- ▼必要な人に必要な情報が伝わっていない（子ども・子育て分野）
- ▼子どもたちが、地域福祉に関して考える機会が少ない（子ども・子育て分野）

第2次
活動計画からの
継続課題

- ▼地区社協の活動内容がわかりにくい、イメージしにくい（地域福祉分野）

(5) 地域での生活支援

いつまでもいきいきと暮らせる場を作るには、身近な地域での相談、災害時の支援、日常生活の支援、生活困窮への支援などの支援体制も意識した地域づくりが必要です。

今回 見つけた 声

- ▼転勤族や、核家族化で身近な相談相手がない人が多い（子ども・子育て分野）
- ▼災害発生後に予測される問題や課題についての勉強会が必要である（高齢者分野）
- ▼買い物難民が増えている（高齢者分野）
- ▼貧困、独居、介護など複合的な課題を抱えている家族が増えていて、支援が困難になっている（高齢者分野）

第2次 活動計画からの 継続課題

- ▼防災について、防災組織と地域福祉関係者と自治組織の一体化が図られていない（地域福祉分野）

